



# えんじゅ

春日市立春日小学校  
校長室便り No.6  
令和4年6月24日  
文責：校長 福島

## やさしさのルー



写真は、学校の片隅にある「ルリビタキの墓」です。小学校にはこうした生き物の墓が時々できます。今日は、この写真にまつわる心あたたまる話を紹介します。

先日、3年生の子供が校長室に「相談したいことがあります」とやってきました。話を聞くと、3階のベランダに野鳥が死んでいるということでした。野鳥を手で触ることはよくないと知っていたようで、このままにしておくこともできないのでどうしたらいいか相談に来たということでした。「お墓をつくってあげたいけど、みんなが手で触ることはできないから音琴先生に相談してごらん。」と答えました。子供たちは「お墓に花もあげたいね、学校に花咲いていたかなあ。」と話していたので、校長室に活けてあったアジサイを1本「これあげましょう。」と渡しました。校務員の音琴先生にもこのことは話していました。

昨日、音琴先生から「野鳥は私の方で学校の片隅に埋めておきました。今日の昼休みに子供たちが花を供えに来るようになっていきます。」と聞きました。写真の「ルリビタキの墓」と書いた札は、スクールサポートスタッフの丸林先生が音琴先生からこの話を聞き、野鳥を見てその名前を調べ、手作りしてくれたものです。

昨日の昼休み、3年生の子供たちが校長室にやってきました。「校長先生、ありがとうございます。今お墓で手を合わせてきました。」うれしそうに伝えてくれました。私もとても温かい気持ちになりました。

学校には、直接子供の指導に関わる先生もいれば、公務員やスクールサポートスタッフのように間接的に子供に関わる職員もいます。すべての職員が子供の願いをかなえるために自ら考えて動けることをとても誇らしく思います。余談ですが、玄関の季節を感じさせる飾りは、すべて丸林先生の手作りです。みんなを潤してくれます。ご来校の際に気にかけてみてください。